

南山城学園の利用者様が作っている 毎日の食卓や暮らしを彩る一品をご紹介します



クッキー

障害者支援施設「翼」

法人の保護者会やバザーなどで販売。お土産などに少量からでも注文を受け付けています。



堆肥

障害者支援施設「円」

枯れ草を利用して作った堆肥は、近隣農家さんに人気です！収益の一部を「みどりのまらづくり基金」に寄付。



さをり織り商品

身体障害者デイサービスセンター「すいんぐ」

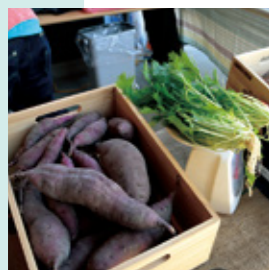
ポーチ、ランチョンマット等。京都府聴覚言語障害センター内「あんだんて」(JR城陽駅徒歩5分)で販売。



アロマキャンドル

障害者支援施設「光」

(株)モンサンミッシェルとのコラボ商品として製作。2016年度からネット販売も開始！



野菜

「ぶちぼんとファーム」

(京田辺市)

カフェ「ぶちぼんとkitchen+farm」で提供するほか、京都市内の釜座マルシェに出店。



座布団

障害者支援施設「和」

工場で余った靴下の端切れから手編みで作っています。特注でオリジナル商品も手編みしています。



紙漉きはがき

障害者支援施設「和」

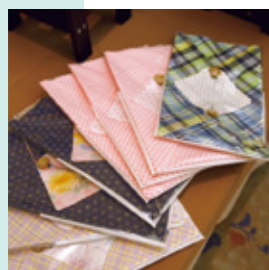
いらなくなった牛乳パックから作っています。年に1度、近隣の清仁保育園のこどもたちを招いて紙漉きはがき体験も。



コースター

障害者支援施設「和」

手先が器用な利用者様が羊毛フェルトで作っています。



縫製製品

知的障害者デイサービスセンター「あっぷ」

ティッシュカバー等。フリーマーケットやバザーで販売するほか、城陽市役所で常設展示しています。



木工製品

知的障害者デイサービスセンター「あっぷ」

ブランケットカバー等。フリーマーケットやバザーで販売するほか、城陽市役所で常設展示しています。



有機栽培の京野菜

障害者支援施設「魁」

九条ねぎ、聖護院大根、長大根、小松菜、人参、たまねぎ、万願寺とうがらし、にんにく、漬物、切干大根など。城陽市内の畑で栽培しています。



社会福祉法人
南山城学園



社会福祉法人
南山城学園

ANNUAL REPORT

事業報告書

2015

MINAMI
YAMASHIRO
GAKUEN

地域の 皆様とともに

minami yamashiro gakuen
2015.4-2016.3



未就学児のための 「体験型」親子セミナー

「ママにもできるチャイルドカット」(赤松隆滋氏)、「親子ピクス」(佐々木阿悠佳氏)、「こどものツボ刺激」(中村満氏)を合わせて年9回実施し、88名が参加。



JR西日本で社員研修

10月、JR西日本の宇治管区とJR西日本サービスの職員に、見た目ではわかりにくい知的障害のある人への配慮について研修を実施。



家族介護教室の開催

家族や事業所を対象に年2回開催。精神科医が認知症について、歯科医が口腔ケアの重要性について講演し、95名が参加。(「煌」主催)



スクールバスの見送り

京都市立東総合支援学校のバスターミナルが醍醐エリアの敷地内にあり、職員が送迎・見守りを行っている。



写真展ACWA

5月、一般企業への就職を目指し、障害者就労支援事業所で訓練している人たちを紹介した写真展をイオンモール久御山にて他事業所と共同で開催。



作品展示会「といろ展」

12月、「思いのままに」をコンセプトにこの1年間利用者様が作ってきた造形作品の展示会を文化バルク城陽で開催。(「円」「和」主催)



ぶちぼんとファーム始動

地域のコミュニティ農園を利用者様の作業場と中間的就労の場に活用。住民向けにサービス付き週末体験農園や収穫体験を実施。



子どもたちへの 福祉教育活動

「翼」では、南城陽中学校の吹奏楽部が演奏会を年5回開催。事前に職員が学校を訪れて障害者理解の学習も実施。「輝」では、利用者様と春日野小学校4年生(53名)との交流会・見学を年2回実施。



発達障害啓発セミナー

4月の発達障害啓発週間に澤月子氏の講演会「ふつう、てなんだらう」を「光」が主催し、31名が受講。



和光祭

地域に開かれたお祭りを醍醐エリアで開催し、約600名が来場。お祭り内では、春日野小学校のチャリーディング部「ブルードルフィンズ」の発表や栄養士による栄養講座を開催。



地域のクリーン活動

「魁」・「光」・「輝」の利用者様が率先して、施設周辺や駅などを中心にクリーン活動を実施。



彩雲祭

地域に開かれたお祭りを城陽エリアで開催し、約300名が来場。福祉避難所に指定されていることから災害時用の非常食やダンボールベッドなどが体験できる場を提供した。



中間的就労の場を提供

多目的活動棟「彩雲館」の清掃で2名、コミュニティ農園「ぶちぼんとファーム」の農作業で2名受け入れを開始。

NEXT Vision2025

ネクストビジョン2025

南山城学園は5年、10年スパンで経営を見直し、社会環境の変化に迅速かつ柔軟に対応することで、成長を続けてきました。50周年を機に実施した調査などをふまえて策定したのが、「ネクストビジョン2025」です。今後10年間に予想される経営環境を見据えて、法人理念を実現するためにめざすべき方向を示した「長期ビジョン2025」とそれらを今後5年間に具体化するための行動目標「中期経営計画2020」から構成されています。この「ネクストビジョン2025」に沿って、法人経営におけるPDCA、すなわち計画、実行、点検、見直しを行っています。

長期ビジョン2025

～めざすべき方向～

Quality

暮らしの質の向上

長期ビジョンの一つ目の柱は、Qualityです。利用者様の一人ひとりの尊厳を守り、幸福を追求すること。それが私たちの使命です。さらに利用者様はもちろんのこと、地域の皆様にも、末永く自分らしい生き方ができるように、福祉サービスを提供していきます。

Resource

経営資源の有効活用

長期ビジョンの二つ目の柱は、Resourceです。私たちには50年培ってきたノウハウや人材があります。それらを活用し、地域福祉の充実・発展を通じて、社会に還元していく決意があります。地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、共生・共助の地域づくりに貢献していきます。

Creation

創造性の発揮

長期ビジョンの三つ目の柱は、Creationです。いつでもだれでも安心して利用できる福祉サービスを創造すること。これも私たちの使命です。これから先の時代が求める福祉課題に対応し、福祉を必要とするすべての人を対象に、新しい地域包括ケアを創り上げていきます。

中期経営計画2020

～今後5年間の目標～

(1) 障害者の地域移行

入所施設利用者の地域移行促進のため、京都府南部地域でグループホームを整備し、入居者数を80名にします。

(2) 高齢障害者の居住安定

高齢障害者の居住安定のため、京都府南部地域で地域密着型特別養護老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など居住施設を2施設開設します。

(3) 高齢者福祉の充実

地域包括ケアシステムを推進するため、介護老人保健施設を在宅強化型にするとともに、訪問リハビリテーションなど在宅支援を充実します。

(4) 地域コミュニティの活性化

法人が有する地域交流スペースを積極的に地域に開放します。また自治会等の地域活動との連携を強化し、地域の福祉課題に取り組みます。

(5) 福祉教育・啓発の推進

障害者や高齢者への理解を促進するため、学校と連携した出前講座や啓発広報活動を実施し、人権尊重の意識の醸成につとめ、福祉の街づくりに貢献します。

(6) 魅力ある職場づくり

風通しのよい組織風土の醸成や事業所内保育所の開設など、職場環境の整備に取り組みます。あわせて人材育成の仕組みを強化し、働きがいのある職場づくりを通じて人材確保に努めます。

(7) 災害時の対応

福祉避難所設置訓練を継続して実施し、大規模災害発生時には被災地への職員派遣や災害時要配慮者の受け入れなど、復旧復興活動の支援をおこないます。

(8) 保育・子育て支援事業の展開

京都市内で平成27年4月より開設した、小規模保育所の充実発展とともに、認定こども園を新たに開設します。あわせて地域子育て支援拠点事業を実施し、「地域の子育て・親育て」を支援します。

(9) 生活困窮者への支援

生活困窮者が社会的自立を果たせるよう、さまざまな中間的就労の場を提供し、一般就労への移行を支援します。

(10) 研究と実践の連携

強度行動障害や認知症のある人々への支援について、大学等と連携して科学的根拠に基づく研究と実践をおこないます。また、独自の研修プログラムを開発し、他法人の職員を受け入れ、実践的な研修を実施します。



磯 彰格 理事長インタビュー

人を支えるのは、
人しかいない

南山城学園の「ネクスト」とは？

これからの50年を見据えて、これまでの50年で取り組んできた事業の成長、発展に加え、多方面から社会に貢献できる事業に力点を置いていくことが重要だと考えています。当法人だけでなく、社会福祉法人そのものが「地域になくてはならない存在」として、地域の皆様と共にある社会を創造していくことが理想です。

2015年度のポイントは？

1. 事業基盤の強化では、法人の事業を地域の社会資源として位置づけ、多くの方々にサービスを提供できるよう努めました。空床状況を分析し、利用率の向上を図っています。また、法人の事業を知っていただくためのホームページや広報誌をリニューアルし、情報発信の強化に努めました。
2. 地域への貢献では、生活困窮者への支援として、中間的

就労を推進し受入業務を拡大しました。

3. サービスの質の向上では、事故防止の強化及び災害時の対応マニュアルの作成、また虐待防止のためのスタッフ向け、利用者様(保護者様)向けの具体的調査を実施しました。
4. 職員の質の向上では、人材育成を強化するべく「7つの誓い」ハンドブックを作成し、職員の目指すべき行動基準を常に意識できるものとなりました。
5. 京都市における「保育・子育て支援」の環境の充実を目指して、新たに「小規模保育園」を3園開設しました。

さらに魅力ある2016年度へ

ネクストビジョン2025の趣旨に沿って、子どもからお年寄りまで、「その人らしく」、「住み慣れた場所で」、すべての人が幸せに生活するための地域包括ケアシステムの構築に取り組んでまいります。

About us

基本理念

01 利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する。

私たちは利用者様の人としての尊厳を重んじ、一人ひとりのかけがえのない人生に寄り添い、ともに幸福を追求します。

02 地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、「共生・共助」の地域づくりに貢献する。

私たちは、社会福祉法人として培ってきた専門性やノウハウを最大限に活かし、地域社会における福祉ニーズに率先して取り組み、課題解決に努めます。
また、すべての方が住み慣れた地域で互いに寄り添いながら暮らせる福祉社会の実現に貢献します。

03 いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する。

一人ひとりの特性に応じた適切なサービスを提供するため、さまざまな事業を展開し、安心して利用できる新たな福祉サービスを創造します。

7つの誓い

～職員がめざすべき行動基準～

1 質の向上に向けた意欲と実践

私は、利用者様の幸福のため、利用者ニーズに即応して、結果を出せるよう自らが行動を起こします。

2 ルールと正確性の重視

私は、利用者様、職員など関わるすべての人々の安心・安全のため、ルールを守り正確性を重視します。

3 利用者理解と個別サービスの追求

私は、利用者様の尊厳を守り、利用者様の理解に努め、質の高い個別サービスを追求します。

4 セルフイメージの向上と影響力

私は、社会福祉の一端を担う者としての自覚と自信を持ち、人々に前向きな影響をもたらします。

5 職員の支援と育成

私は、職員として、ともに学び、成長することを、互いの喜び・楽しみとします。

6 チームワークとリーダーシップ

私は、チームの和を大切にしつつ、立場や状況にふさわしいリーダーシップを発揮します。

7 専門性の向上と活用

私は、職務に必要な専門的、組織的能力を身につけ、発展させ、活用します。

法人概要

事業内容	・第一種・第二種社会福祉事業(障害・高齢・保育) ・公益事業	職員数	612名(平成28年3月31日現在)
設立	1965年(昭和40年)2月	経常収入	35億円(平成27年度実績)
代表者	理事長 磯 彰格	事業所	京都府城陽市/京都市伏見区・中京区・下京区ほか 障害25ヶ所/高齢4ヶ所/小規模保育3ヶ所など

事業領域

自分らしく 幸せに暮らせるよう、 生活全般をサポート

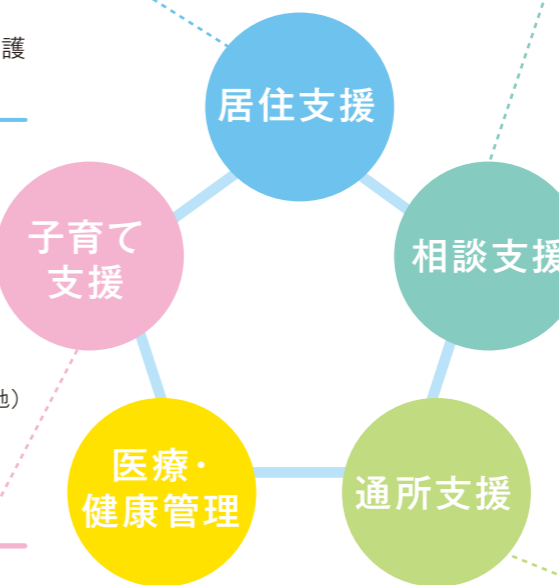
[対象] 主に知的障害のある方や介護保険適用の高齢者

障害者支援施設 円(まどか)
 障害者支援施設 和(なごみ)
 障害者支援施設 魁(さきがけ)
 障害者支援施設 翼(つばさ)
 障害者支援施設 凜(りん)
 障害者支援施設 光(ひかり)
 障害者支援施設 輝(かがやき)
 知的障害者グループホーム(寺田ホーム 他)
 介護老人保健施設 煌(きらめき)

子どもたちの主体性を育む 小規模保育

[対象] 乳幼児

もりの詩保育園(平成28年4月開園)
 小規模保育事業 かぜの詩保育園
 小規模保育事業 そらの詩保育園
 小規模保育事業 はなの詩保育園



住み慣れた地域での 暮らしを続けられるよう、 相談に対応

[対象] 障害のある方や高齢の方、またご家族の方

山城北園域障害者総合相談支援センター
 ういる
 障害児(者)地域療育支援センター ういる
 障害者生活支援センター はーもにい
 障害者就業・生活支援センター はびねす
 京都府地域生活定着支援センター ふいつと
 障害児(者)相談支援センター リーふ
 居宅介護支援事業所 すまいる
 老人居宅介護支援事業所 れいんぼう

医療・ 健康管理

医療と福祉の連携により、 安心・安全をサポート

[対象] 主に施設利用者様

南山城学園診療所
 和光診療所

多様なニーズを受け止め、 充実した日中活動の場を提供

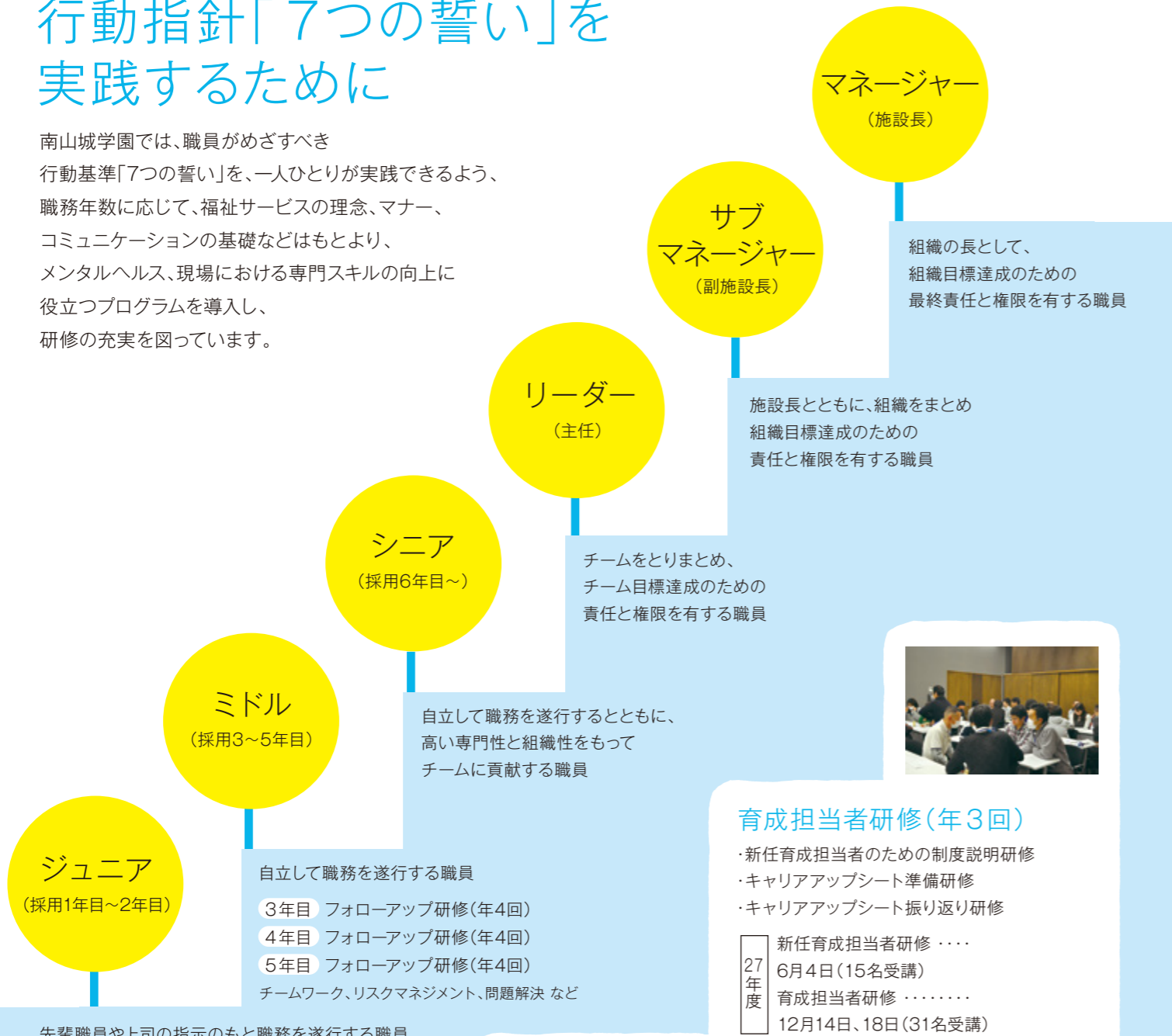
[対象] 地域で暮らす障害のある方や高齢の方

知的障害者デイサービスセンター あつぷ
 身体障害者デイサービスセンター すいんぐ
 障害者就労移行支援事業所 魁(さきがけ)
 障害者デイサービスセンター わごう
 児童日中一時支援事業所 ちえりー
 高齢者デイサービスセンター すまいる
 通所リハビリテーション 煌(きらめき)

福祉人材を育成

行動指針「7つの誓い」を 実践するために

南山城学園では、職員がめざすべき行動基準「7つの誓い」を、一人ひとりが実践できるよう、職務年数に応じて、福祉サービスの理念、マナー、コミュニケーションの基礎などはもとより、メンタルヘルス、現場における専門スキルの向上に役立つプログラムを導入し、研修の充実を図っています。



- 1年目** 採用時10日間、フォローアップ研修(年12回)
2年目 フォローアップ研修(年6回)
- 社会人マナー、救急救命、防災、権利擁護、法律、社会資源の活用 など

テーマ別研修

事業計画や事業方針に沿って実施する研修

- 27年度
発達障害の理解と支援《基礎編》 ……7月14日、15日、28日(149名受講)
発達障害の理解と支援《応用編》 ……3月8日、15日、16日、29日(102名受講)
講師:澤 月子 氏 (南山城学園障害福祉事業局 スーパーバイザー)

シニア研修

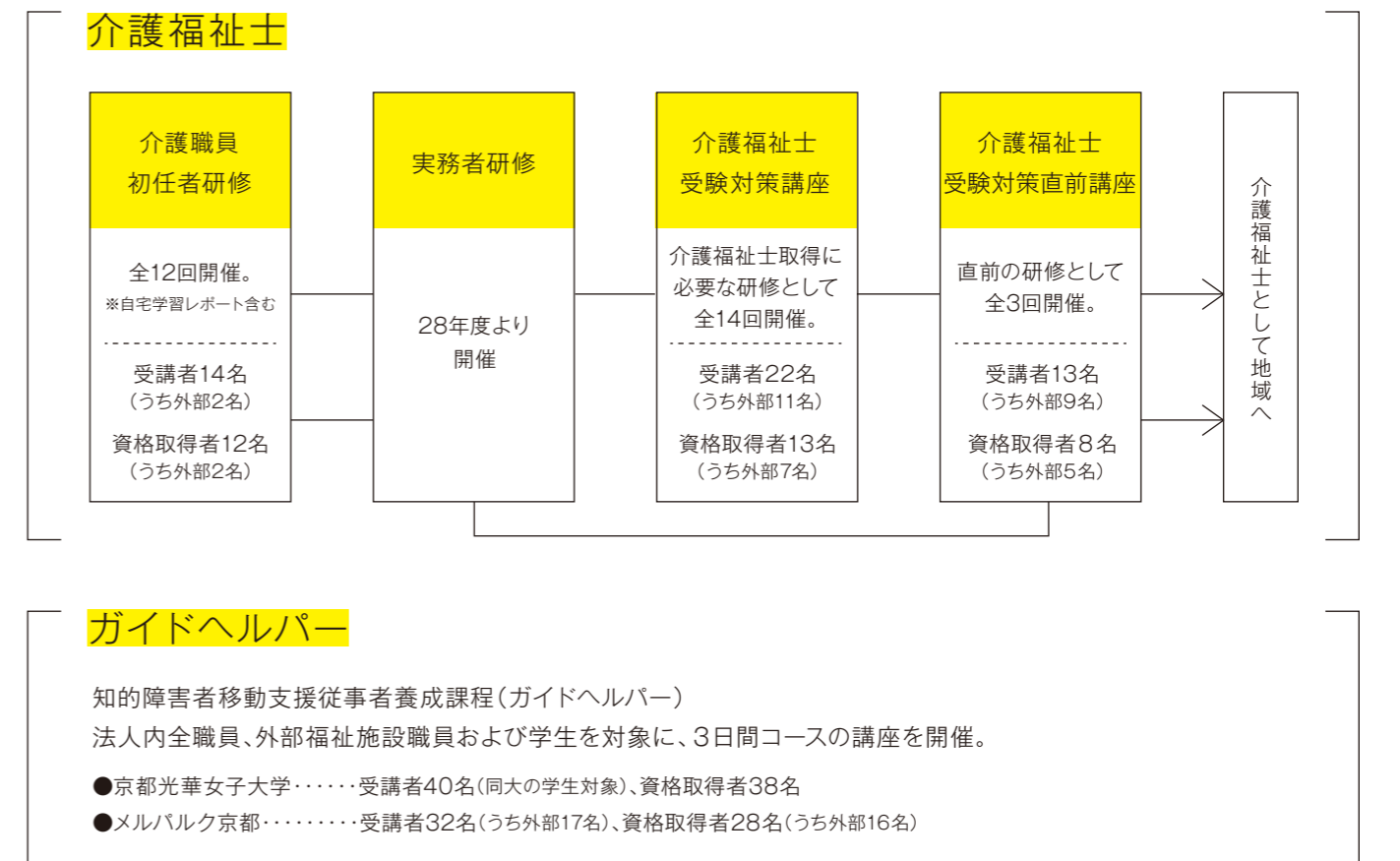
- 27年度
権利擁護 ……5月30日、6月20日(49名受講)
困難事例検討 ……9月19日、11月21日、1月30日(57名受講)
講師:久田 則夫 氏 (日本女子大学 人間社会学部 社会福祉学科 教授)

全職員を対象とする法人主催研修として、現場における専門スキルの向上を目指し、様々な研修を開催しています。

外部からも参加できる研修などで 地域福祉に貢献

法人主催の研修

京都府内を中心に、地域の福祉人材を育成する観点から、法人職員のみならず外部福祉職員を対象を広げて、以下の講座を開催しています。



福祉・保育実習や介護等体験を受け入れ

社会福祉系または保育系の免許状、小・中学校教諭の免許状の授与を受ける方は、教育カリキュラムで現場実習が義務づけられています。南山城学園では、福祉職に従事する人材の育成や、卒業後の進路選択の幅を広げるという観点から、福祉・保育実習、介護等体験などを受け入れています。

社会福祉士実習	相談援助実習	保育実習	介護等体験
・京都女子大学 ・大谷大学 ・京都ノートルダム女子大学	・京都医療福祉専門学校	・京都文教大学 ・京都聖母女学院短期大学 ・大阪保育福祉専門学校	・佛光大学 ・龍谷大学 ・同志社女子大学 ・京都教育大学

リスクマネジメント

事故や災害への対策に取り組んでいます 本部リスクマネジメント委員会

事故ゼロを目指して

投薬に関するリスク対策部会

落葉事故が26年度から増加しており、薬の飲み込み確認の徹底が課題となっている中、27年度は過去3年の服薬関係事故を検証し、服薬事故対応マニュアルの改訂などに取り組みました。今後も、利用者様の機能低下など再アセスメントによる状態把握と確実な投薬体制、職員の意識付けの徹底に努めます。



服薬事故対応マニュアル

車両運転に関するリスク対策部会

車両事故報告書などの書式確認と運用の見直しと安全運転のためのガイドライン、事故発生率の高い箇所を洗い出したマップを作成しました。職員を対象にビデオ学習や実技講習などの啓発活動を行いました。今後も継続し、効果測定を行います。



2015年2月15日、JAF京都支部によるBOX入出庫の実技講習

もしもの備えを万全に

大規模災害部会・・・災害時のリスク対策、福祉避難所のマニュアル作成

27年度は大規模災害時の各種マニュアル(案)を策定し、職員参集訓練を実施しました(33名が参加)。今後は、安否確認メールシステムを導入し、情報収集・発信の一元管理を検討します。また、福祉避難所運営マニュアル、各事業所のBCPマニュアルの整備を進め、災害時訓練を様々なシチュエーションで実施します。

利用者様の安否は施設に行けばわかるが、職員の安否確認方法がなかった。

通所施設は送迎時間に当たるので、通所利用者様の安否確認も必要ことがわかった。

職員参集訓練 参加者の声

他施設の人員配置や建物の構造を知らなかった。安否確認をする際、把握しておく必要がある。

指令通り、自施設に向かったが、通り過ぎた他施設には管理職が到達していなかった。近い職員が対応できるマニュアルに。



法人主催のイベント「彩雲祭」では福祉避難所となる彩雲館に備蓄している非常食の試食会を開催

サービス向上の取り組み

職員セルフチェックシートで権利擁護を徹底 サービス向上プロジェクト

虐待防止委員会の中にサービス向上プロジェクトを設け、各施設が提供するサービスの質や業務内容などについて客観的かつ公平な立場から評価等を行いました。

セルフチェックを行い、結果を検証

全職員が「利用者様の権利擁護のための職員セルフチェックシート」を活用し、結果を検証。職員の権利意識を明らかにするとともに、課題解決の方策を探りました。今後は、アンガーマネジメント(イライラや怒りを自ら管理し、適切な問題解決やコミュニケーションに結びつける心理技術)の研修を導入予定です。

<職員セルフチェックシートの項目>

- ① 利用者様を呼び捨てや「ニックネーム」、「ちゃん」付けで呼んでしまうことがある。
- ② 利用者様への説明はわかり易い言葉で丁寧に行い、威圧的な態度、命令口調にならないようにしている。
- ③ 言葉や表情などの反応がないからという理由で、言葉掛けをせずに支援を行うことがある。
- ④ 「〇〇すると、△△できませんよ」と言ってしまうことがある。
- ⑤ 衣類や身体が汚れていることに気付いていても、対応を先延ばしにすることがある。
- ⑥ 体罰(殴る、蹴る、叩く、つねるなどの身体的苦痛を伴う行為)は一切行っていない。
- ⑦ 職務上知り得た利用者様個人の情報を他に漏らしたことがある(SNSを含む)。
- ⑧ 同僚や上司と日々のサービス提供に関わる相談を含め、コミュニケーションがとりやすい雰囲気がある。
- ⑨ イライラしていると感じることもある。
- ⑩ よく眠れない。
- ⑪ 利用者様の体に原因不明の傷や打撲などを見つけた場合は、上司に報告し、記録に残している。
- ⑫ 利用者様の現金管理と出納帳への記入は、法人の規程に基づき、適切に行っている。



職員セルフチェックシート

職員研修を実施

法人が定める「人権強化月間(12月)」に基づき、全職員に対して研修を開催しました。

虐待防止研修 (27年11月4日、12月3日)

重度障害者通所介護「じゅらく」の久門誠所長が虐待防止・権利擁護について講演 参加人数/計98名

人権研修 (27年12月8日、15日、28年1月21日)

龍谷大学短期大学部社会福祉学科 加藤博史教授が障害者差別解消法について講演 参加人数/計153名

福祉職の魅力発信

GAKUEN魅力発信チームが活動中

学園=GAKUENを略した「GKN」の愛称で活動している学園魅力発信チームは、入職10年未満の職員の集まりです。

利用者様支援や施設・法人の強みや弱みなどについて話し合い、出前講座や研修、就職フェアなどで福祉職の魅力を地域に発信しています。



魅力発信チーム会議



年5回開催。動画やパンフレットの作成方法などを学びました。

アドバイザー
まちしごと
総合研究所



野池正人氏 東信史氏

メンバーをアドバイザーとして支えているのが「有限責任事業組合まちしごと総合研究所」。地域づくり・仕事づくりが専門のシンクタンクです。映像を作ったり、採用パンフレットの制作に関わったりしながら広報の基礎を学び、助言をいただいています。

大学などでの講演活動



45分の長丁場に挑戦

京都光華女子大学1回生の講義で「相談援助の基盤と専門職」におけるソーシャルワークの基礎の一部分を担当しました。

西城 瞳（生活支援員/採用4年目）

相談援助と聞くと「相談職だけしか活かせない」と思われがちですが、生活支援員として働く現場でも、利用者様と関わることで、「ソーシャルワークは相談職だけではない」と実感。ぜひ、それを学生さんに知っていただきたいとお伝えしました。



支援現場を写真で紹介

佛教大学2回生が相談援助支援演習（社会福祉士の受験に必須）の実習先選択の前に受ける講義で経験談などを話しました。

松原 奈弓（社会福祉士/採用6年目）

大学から「現場状況がわかる具体的な事例を」と要望されたので、失敗も含めた支援事例をいくつか紹介しました。支援現場の様子が伝わる写真もたくさん盛り込み、GKN研修で使い方を学んだ動画編集ソフトで映像を作って紹介しました。利用されている方々が1年間、どんなことをしているかが伝わったかなと思います。



新しい作業棟が完成しました

平成28年2月に竣工しました。工房「希(まれ)」と「望(のぞみ)」。障害者支援施設円、魁、和、翼の作業棟として活用されています。



1階は円の作業(空き缶つぶし)・魁の作業(箱折などの内職・リネン)の場として、2階は魁の作業(ネジ締めや枕の糸ほつれの縫い直しなどの内職)・翼のクッキー作成の場として活用しています。



円の造形活動(粘土・絵画)・和の余暇活動(紙漉きハガキ作り)・魁の作業(施設利用者様の服の洗濯、乾燥)の場として活用しています。

利用者対応チェックリストで全員が毎月、自己評価！

「円」は、重度障害のある方が多く、かつ障害特性の幅も非常に広い施設です。また近年、高齢化が進み、介護度が高まっています。

そこで、27年度は、サービスの質の向上を最優先に取り組み、利用者様一人ひとりの満足度を高める取り組みを行いました。

特に有効だったのが、「利用者対応チェックリスト」の活用です。毎月、全職員が利用者対応に関する自己チェックを行い、その結果をもとに話し合い、改善を行いました。その結果、「円」で目指している「丁寧な支援」に向けて、一定評価できるレベルに達することができました。



個別カンファレンスの強化

利用者様一人ひとりに作成している個別支援計画の内容を、全職員で毎月2名ずつ共有する「個別カンファレンス」を実施。その人に合った支援の方法について、さまざまな知見や経験を持つ職員同士が意見を出し合い、支援の個別化を進めています。



外部講師によるケーススタディ

利用者本位サービスの実現を目指し、日本女子大学の久田則夫教授にご指導いただき、年4回のケーススタディを行いました。

<研修内容>

- ・ 壁やドアを叩く行為、自傷行為のあるケースの対応
- ・ 水中毒のリスクがあるケースの対応
- ・ 過去の虐待のフラッシュバックに起因するパニック障害ケースの対応等

その結果、困難ケースへの支援の見直しを行い、改善することができました。



〔次年度に向けて〕

重度の様々な障害のある利用者様が入所されている中で安定的な事業運営を行うために、勤務形態ごとに業務内容を整理し、標準化を進め、職員の質・量の確保と業務の効率化を推進していきます。また、毎月1名以上、個別に掘り下げたカンファレンスを行うとともに、スーパーバイザーのアドバイスを受けながら支援の充実を図ります。

事業内容：生活介護60名(稼働率95.1%) 施設入所60名、短期入所4名(稼働率95.1%)		
利用者層：重度知的障害者	所在地：城陽市富野狼谷(本園)	施設長：松井 一真

「高齢でも続けられる日中活動とは？」 新たな活動の導入に向けて

「和」は、高齢期を迎えた方々のユニットケアを中心に、生涯活動の場として充実を図り、健康管理にも十分な配慮をしながら、張りのある生活日課につとめています。

27年度は第三者評価を受診し、施設の「強みと課題」を把握することができました。

特に、勤務体制の課題、日中活動の提供体制と内容の見直しが大きな課題であることを再確認しました。そこで、利用者様の高齢化に伴い、日中活動が縮小傾向となっている現状を改善するため、新しい作業活動の導入準備を進めました。開始には至りませんが、今後に向けて課題を職員全員で共有し、検討を継続しています。



現在行っている日中活動「フラワーアレンジメント」

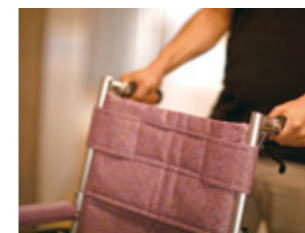
第三者評価の受診に向け、 改善活動に取り組む

第三者評価の受診に向け担当委員会を組織し、自己評価と改善活動を進めました。

<具体的な改善の取り組み>

- ・ マニュアルの整備
- ・ 利用者様の自治会活動の活性化 など

9月に受診し、A評価54項目、B評価8項目、C評価ゼロと、高評価を受けることができました。



〔次年度に向けて〕

施設内規定・勤務体制・業務手順の見直しを図るとともに、高齢期を迎えた障害のある利用者様の日中サービスを活性化させ、生活の質の向上を図ります。

事業内容：生活介護79名(稼働率96.3%) 施設入所79名、短期入所4名(稼働率95.3%)		
利用者層：知的障害のある高齢者	所在地：城陽市富野狼谷(本園)	施設長：山口 嘉信

日中活動を再編し、作業意欲の向上を実現

「魁」では、「地域で働きながら暮らすこと」を目標に、一人でも生活できるよう、就労につながる支援と社会への適応能力を養うことを目指しています。しかし、利用者様の高齢化に伴い、作業内容をどのように転換するかが課題となっていました。

そこで、平成28年2月の新しい作業棟完成をきっかけに、高齢のために従来の作業が困難となってきた利用者様に対して、作業配置を見直し、新たな簡易作業を導入しました。こうした作業転換を行い、生活介護事業利用者様の作業意欲を向上させることができました。



就労移行支援事業の安定的な運営を目指して

特別支援学校からの実習受入12名、支援学校卒業生の就労アセスメントなど、新規利用に向けた取り組みを行い、徐々にではありますが、利用者数が増加しています。

〔次年度に向けて〕

- 生活介護事業の利用者様の高齢化対策
作業支援会議(施設内)で検討してきた新規の取り組みとして、就労訓練作業(ボールペン組立、分解)、やりがいや楽しみにつながる自立課題の作業(貼り絵など)を実施します。引き続き、「高工賃支給」を目標とし、可能な下請け作業も探していきます。
- 就労移行支援事業
2年間の有期限のサービスで、就職すると同時にサービス終了となり、他サービスより利用者様の出入りが大きいことから、より多くの受け入れができる体制づくりを検討していきます。

事業内容:生活介護55名(稼働率99.2%) 就労移行12名(稼働率29.3%) 就労継続A型10名(稼働率115.3%) 就労継続B型15名(稼働率83.2%) 施設入所60名、短期入所1名(稼働率96.6%)		
利用者層:就労を希望する障害者	所在地:城陽市富野狼谷(本園)	施設長:日置 貞義

すべての利用者様に対して生活環境調査シートを作成し、見直しを図る

「翼」では、青年期にある自閉症を有する方や、集団になじめずより細やかな心理的・精神的ケアを必要とする方に対し、職住分離の充実と障害特性に応じたプログラム活動の提供に努めています。

27年度は重度の知的障害、自閉症などの発達障害、行動上の課題を持つ方への個別的な支援を行うとともに、地域における施設の存在価値を高めることをテーマに取り組みました。

その一つが、生活環境調査シートの作成です。入所者の80%が開所当初(平成11年)からの継続利用ですが、いま一度、地域移行も含めた生活基盤の見直しを行いました。



生活環境調査シート記入内容(例)

- [現状の生活環境での利点] ・ 個室があり、少人数のユニット単位で生活できる、日課が決まっている
- [現状の生活環境での課題] ・ 急な変化を苦手とし、関わる職員が異なるだけで日課が進められないことがある
- [本人の意向] ・ もっと職員と関わりたいが、一人で過ごす時間も必要。バランスよく過ごしたい
- [保護者の意向] ・ 他人に迷惑をかけることなく、元気に過ごしてほしい
- [今後の生活のあり方] ・ 見通しを持った過ごし方が大切な方なので、環境の変化はない方が望ましい



権利擁護意識の向上へ

日常的な取り組みとして「絶対にしてはいけない事リスト」の確認を毎日行いました。さらに、施設内研修を実施し、日常の支援にも活かしています。

〔次年度に向けて〕

「施設が目指す支援のあり方を再考する」ことをテーマとして、権利擁護に関するセルフチェックの導入や日中活動の再編など、生活環境や支援のあり方を改めて見直すことを軸に事業活動を進めていきます。

事業内容:生活介護35名(稼働率98.3%) 施設入所35名、短期入所2名(稼働率100.3%)	
利用者層:重度知的障害者	
所在地:城陽市観音堂甲畑	施設長:西田 武志(「あっぶ」センター長 兼任)



農作業で地域との交流を 深めています

「凜」は、「障害が重くても適切な支えがあれば地域の中で暮らせる」という方々が地域社会の一員として生きていけるよう、施設という建物の枠を越える関係性を重視した支援を目指しています。

27年度は、自閉症支援の充実と、農園「ぶちぼんとファーム」での地域貢献・交流を柱に取り組みました。ぶちぼんとファームは、26年度に、カフェの自家農園として開設した農場です。「ぶちぼんと」はフランス語で“小さな橋”を意味し、「障害を持った方と地域の皆様との“架け橋”となるように」との願いが込められています。畑では1区画で年間を通して最大約40種類の野菜を育てることができます。ここで、地域住民を対象に「サービス付き週末体験農場」を開始しました。



いもほり大会に地域の皆様が参加しました(2015.10.15)



中間的就労に取り組み、2名受け入れ

27年11月からぶちぼんとファームで生活困窮者の「中間的就労」に取り組み、27年度は2名受け入れました。

新たにスーパーバイザーを導入し、 自閉症支援を充実・強化

スーパーバイザーによる訪問指導を新規に導入し、職員研修とカンファレンスを通じて利用者様支援の構造化を進めました。

〔次年度に向けて〕

自閉症支援にPEP-3検査(自閉症・発達障害児 教育診断検査)を導入し、一層の深化を図るとともに、ぶちぼんとファームでは新たに地域向けのイベントの開催やホームページ開設による情報発信強化を行い、集客増を目指してまいります。

事業内容:生活介護49名(稼働率91.5%) 施設入所40名、短期入所2名(稼働率98.1%)	
利用者層:重度知的障害者	
所在地:城陽市富野東田部	施設長:山代 浩史(障害事業局長<城陽>兼務)

PECSの実践により職員の専門性を追求

「光」は、自閉症や発達障害がある方や、集団になじみにくい方々に対し、個別支援の充実と豊かな暮らしの実現を目指しています。特に、ご本人の想いや希望を見据えた支援の積み上げを重視し、得意や強みに着目しながらその方にとっての“自立”を追求しています。

27年度は、開設6年が経過する中で、2度目の第三者評価を受診しサービス内容の検証を行うとともに、地域住民向けの障害啓発活動、職員の専門性の強化に努めました。

職員の専門性を高める取り組みの一つにPECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の実践があります。

月1回のコンサルテーション(指導者:門真一郎氏)を継続して実践事例を積み重ねるとともに、職員によるTEACCH研究会、PECS研究会での発表を行い、ブラッシュアップを図りました。



左の絵カードの中から名詞、動詞などのカードを選んでつくった文章「のど」「いたい」「です」

自閉症・発達障害をテーマとした 市民講座の開催

毎年4月2日の「世界自閉症啓発デー」を含む4月2日から8日までは「発達障害啓発週間」です。そこで、4月5日に市民講座「広げよう!発達障害のある人への理解と支援の輪『ふつう、てなんだらう』」を開催。京都市発達障害者支援センター前副センター長の澤月子氏が講演し、近隣の方々や仕事で関わりがある人、福祉を学ぶ学生など31名が参加しました。

参加者からは「発達障害のある人のことが理解できました」「『否定しない』『個性・特性を認め、伸ばしてあげる』など、子育て中の私にとって、参考になることもたくさんありました」などの感想が寄せられました。



〔次年度に向けて〕

グループホームなどの整備により、「地域生活への移行支援」の具体化に取り組んでまいります。

事業内容:生活介護42名(稼働率96.3%) 施設入所42名、短期入所3名(稼働率98.7%)	
利用者層:重度知的障害者	
所在地:京都市伏見区日野(醍醐)	施設長:奥村 一貴(障害事業局長<醍醐>兼務)



障害者支援施設
輝かがやき

外部研修への派遣を強化し、 情報共有を進めています

「輝」は、高齢期を迎えた方や、心身機能の低下のため介護が必要になった方を対象に、趣味や余暇活動の充実を図り、できる限り現在の生活が継続できるよう支援を行っています。

27年度は、更なるサービスの質の向上を図るため、職員の業務理解の差異を解消する取り組みを行いました。また、高齢化が進む中、介護スキルなどの専門性の向上にも努めました。

例えば、正規職員全員を計画的に外部研修に派遣することにより、研修後の報告会を通して、学びの還元と情報共有の仕組みを確立しています。



<派遣した研修>

- ・接遇向上
- ・広報誌づくり
- ・社会福祉援助入門講座
- ・薬の知識
- ・レクリエーション
- ・アセスメント・プランニング
- ・利用者様の声を聴く
- ・ケース記録の基礎と展望
- ・ケースカンファレンス
- ・福祉職員人権研修
- ・リスクマネジメント研修
- ・問題解決のための思考法
- ・京都デザインフォーラム
- ・最適座位
- ・アサーション (対人コミュニケーション)
- ・コーチング など

セルフチェックシートによる理解度の 確認・評価

全職員を対象に、基本業務のセルフチェックを実施し、業務理解度の確認と評価を行いました。

項目	確認	評価
1. 利用者様への挨拶		
2. 利用者様の声かけ		
3. 利用者様の安全確保		
4. 利用者様の生活支援		
5. 利用者様の健康管理		
6. 利用者様の生活リズムの調整		
7. 利用者様の生活環境の整備		
8. 利用者様の生活支援の連携		
9. 利用者様の生活支援の記録		
10. 利用者様の生活支援の振り返り		

対人援助・接遇チェックシート

〔次年度に向けて〕

セルフチェックシートによる気づきを職員個々にとどまらず、組織全体の課題抽出、業務改善活動につないでまいります。

事業内容:生活介護58名(稼働率93.9%)	施設入所58名、短期入所7名(稼働率94.5%)
利用者層:知的障害者、知的障害児	所在地:京都市伏見区日野(醍醐) 施設長:村地 正浩

世話人への教育を強化し、 事故の防止を徹底

「グループホーム」は、社会への適応能力を身に付け、地域での生活が可能となった方々に対し、安心して暮らしていただくための生活の場です。

7つの施設を運営しており、4~7名の利用者様を一つの単位として、各ホームは世話人と生活支援員、サービス管理責任者により、各種支援を行っています。グループホーム支援室が独立して2年目を迎えた27年度は、各ホームの支援の仕組み化を進めました。既にあるマニュアルなどの見直しも並行して行っています。特に、世話人への指導を強化しました。誤与薬等の事故を減らすため、各ホームの会議でマニュアルの説明、声出し確認の徹底など、世話人への指導の徹底に努めました。



年1回、利用者様のご希望に応じて宿泊旅行に出かけています。27年度は大分(別府)と広島に行きました。

体験利用を促進しています

入所施設利用者様の地域移行を進めるとともに、在宅障害者のニーズに応える取り組みとして、7名の体験利用を受け入れました。



〔次年度に向けて〕

事故防止のための世話人への教育を更に強化するとともに、利用者様の余暇充実や地域参加に向けて積極的に取り組んでまいります。

事業内容:共同生活援助42名(稼働率92.4%)		
利用者層:知的障害者	所在地:城陽市内7箇所	室長:大矢 真弓

グループホーム

DCM導入研修で認知症ケアを強化しています

「煌」は、心身のリハビリによって利用者様それぞれの自立意欲を喚起し、地域社会の一員として活力ある生活を続けていただけるよう、お手伝いしています。27年度は、認知症ケア向上のため、DCM(認知症ケアマッピング)評価に取り組むとともに、稼働率向上策を実施し、下半期から稼働率が改善しました。DCM法は、「パーソン・センタード・ケア(その人らしく暮らすためのケア)」の理念に基づいており、認知症の方の行動、状態、スタッフとの関わりを観察・記録し、マップとしてその方の概観をつかむ方法です。介護する側・される側の区別なく、「私は必要とされている」と感じられる相互関係をつくることを目指しています。全職員を対象にDCM導入研修を実施後、各フロアでDCM評価を行い、その結果をフロア会議で話し合っただけでケアの改善につなげました。



目的:	目標:	15:30-17:30	場所:
認知症6	BCC	P	0.05 0.10 0.15 0.20 0.25 0.30 0.35 0.40 0.45 0.50 0.55
認知症1	ME	-1	
認知症2	BCC	P	P T IN O X X X X P
認知症3	ME	-1	-1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1
認知症4	BCC	A	A D B V A A A K K A A L
認知症5	ME	+1	+1 +1 +1 +1 +1 +1 +1 +1 +1 +1
認知症7	BCC	A	P P P A A A P U U W W
認知症8	ME	+1	+1 +1 +1 +1 +1 +1 +1 +1 +1 +1

DCM評価生データ



質の高いサービスを提供するため、経営の安定化に取り組む

医療機関との連携強化などにより、下半期から稼働率が改善し、目標稼働率を達成しました。

家族のための介護教室を開催

家族や事業所を対象に「煌」が年2回主催。

「認知症は予防できるの？」中島 健二氏(京都府立医科大学名誉教授・精神科医)

「ご高齢の方への口腔ケア」陰山恵三氏(訪問歯科診療・陰山歯科医院長)

〔次年度に向けて〕

リハビリ機能を強化することにより、稼働率の安定、在宅支援の充実を図ります。そのための具体的な方策を講じます。

事業内容:介護老人保健施設100名(稼働率94.5%) 通所リハビリ30名(稼働率82.6%) 居宅介護いんぼう(月平均利用者数29名)		
利用者層:高齢者	所在地:城陽市長池五社ヶ谷	事業統括:吉岡 弘樹

サービス提供時間を延長しました

「あつぷ」では、文化的活動や社会的活動などの複数のプログラムを組み、自立した日常生活及び社会生活が営めるよう、さまざまな機会を提供しています。明るくゆったりとしたスペースで、食事・入浴サービス及び利用者様に合わせた活動ができるように努めています。

27年度は第三者評価を受診し、サービスの質の一層の向上を図るとともに、平成27年度報酬改定を機に、職員配置や送迎範囲の見直しを行い、サービス提供時間を従来より15分間延長しました。



第三者評価の受診

7月にサービス評価委員会を立ち上げ自己評価に着手し、年度内に受診を完了しました。A評価54項目、B評価8項目、C評価ゼロとなりました。



〔次年度に向けて〕

これまでも担ってきた「地域の中での居場所としての役割」をより強化するために、下記の2点について重点的に取り組みます。

- ①施設広報の強化……パンフレットの見直し、事業所の情報をこれまで以上に関係者や地域社会に広める。
- ②運営課題の改善……第三者評価の結果より、改善が必要な項目を中心に業務整理に取り組む。

事業内容:生活介護30名(稼働率75.3%)	
利用者層:知的障害者	
所在地:城陽市観音堂甲畑	センター長:西田 武志(「翼」施設長 兼任)

新しいリハビリ機器を導入して好評です

「すいんぐ」は、身体に障害のある方を対象に、生活支援、余暇活動、ご家族支援などの活動・各種取り組みを行っています。利用者様の年齢層は20歳~70歳と幅広く、世代間交流ができる、憩いの場となっています。

新たに導入したレッドコードというリハビリ機器を使った機能訓練は、利用者様から高評価です。導入に当たっては、外部トレーナーによる職員への指導をしっかりと行いました。



「すまいる」は高齢者デイサービスセンターです。身体機能を維持、向上させるため、楽しみながら心身を活性化できるようなレクリエーションや趣味のプログラムを行っています。27年度は、さらにサービスの質の向上と経営安定化を図るために、煌と合同で「高齢プロジェクトチーム」を立ち上げ、機能訓練を強化するための課題に着手しました。



稼働率の向上を目指して

「高齢プロジェクトチーム」において、高齢部門の稼働率向上策を協議、煌との情報共有を強化しましたが、目標稼働率(88~90%)には及びませんでした。



〔次年度に向けて〕

「すいんぐ」レッドコードについては、集団プログラムだけでなく、個別プログラムへの転換を推進し、利用者様一人ひとりのニーズに応じていきます。また、稼働率向上の対策を更に強化します。

「すまいる」機能訓練職の配置により高齢者の心身状態の維持向上をはじめ在宅生活行為全般である「活動」、家庭や社会参加で役割を果たす「参加」といった生活機能の維持向上も併せて図ります。

事業内容: 身体障害者デイサービスセンターすいんぐ 生活介護22名(稼働率77.5%) 高齢者デイサービスセンターすまいる 通所介護25名(稼働率78.5%)	
利用者層: 「すいんぐ」身体障害者 「デイすまいる」65歳以上の高齢者(1号被保険者)・40歳以上65歳未満の特定疾病罹患患者(2号被保険者)	
所在地: 城陽市枇杷庄	センター長: 窪田 忍 (理事兼任)

「カフェぷらんとたん」のお客様が大幅増加! 地域に親しまれる場所に

「デイわこう」は、主に知的障害者の方を対象に、日中に安心して活動できる場を提供しています。

敷地内では、地域の方々が気軽に利用できる喫茶店「カフェ ぷらんとたん」を運営しています。障害のある方が接客などで活動される中で、地域の方々との交流が自然と生まれ、障害理解にもつながっています。

27年度は、「カフェ ぷらんとたん」の年間集客数が10,000人以上と大幅に増え、醍醐の地域拠点として定着しつつある状態です。新メニューの導入などにより、売り上げも目標を達成することができました。



利用者様が地域の皆様との 交流を深めています

デイサービスでは、利用者様と小学生との共同作業など、地域交流を深めました。実習生の受入にも力を入れた結果、透明性も高めることができました。「カフェ ぷらんとたん」のお客様とのつながりでボランティアに来ていただくなど、地域との交流が広がっています。



〔次年度に向けて〕

「デイわこう」・「ぷらんとたん」とともに特徴ある事業所運営を目指し、デイ稼働率の向上につなげます。

事業内容: 障害者デイサービスセンターわこう 生活介護35名(稼働率77.5%)		
利用者層: すべての障害者	所在地: 京都市伏見区日野(醍醐)	センター長: 小林 稔

事例検討会により、振り返りを強化しています

「ういる」「はーもにい」「すまいる」は、障害をお持ちの方、ご高齢の方およびそのご家族が、より豊かに地域で生活ができるような方法を一緒に考え、必要な情報の提供やサービスの利用方法などについて相談や支援を行っています。
27年度は、関係機関との連携により、利用者様の課題解決に向かうよう、関係機関相互の信頼構築に努めてきました。援助困難者への支援などについて、地域の医療機関の医師らスーパーバイザーの参画を得て事例検討会を開催。見立てや支援内容の評価を行い、改善につなげることができました。



自立支援協議会、地域包括支援センターなど関係機関との連携も強化しています

城陽市自立支援協議会の事務局業務を担い、関係機関との連携の中心的役割を果たしました。また、高齢者が住み慣れた地域で暮らせるよう、城陽市地域包括支援センター・行政・医療機関・校区自治会・民生(児童)委員協議会などと連携してサポートしました。



知的障害のある方への栄養バランスセミナー(はーもにい)



地域の障害者事業所での栄養相談(ういる)

〔次年度に向けて〕

事例検討会や地域ケア会議などの参画により、相談員・介護支援専門員の一層の資質向上に努めます。

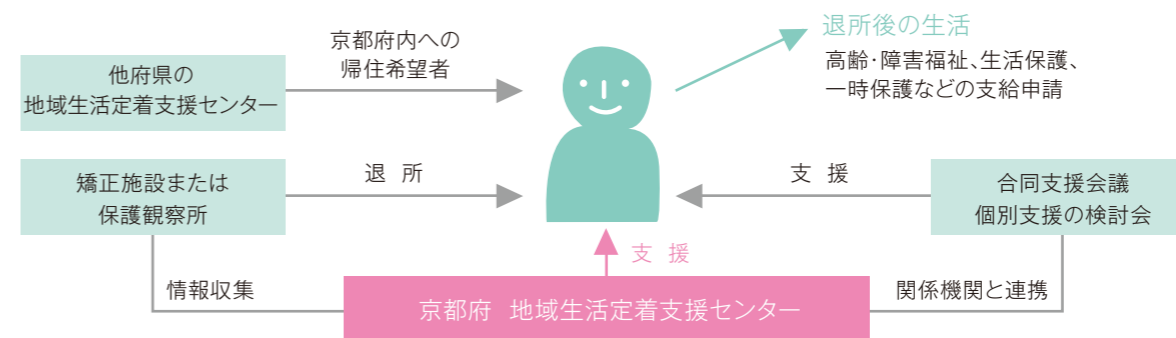
事業内容: 障害児(者)地域療育支援センターういる(療育件数:2,650件) 山城北圏域障害者総合相談支援センターういる(相談件数:4,480件) 居宅介護支援事業所すまいる(月平均利用者数:56名)	
利用者層: [ういる]障害児(者) [はーもにい]障害者 [居宅すまいる]65歳以上の高齢者(1号被保険者)・40歳以上65歳未満の特定疾病罹患患者(2号被保険者)	
所在地: 城陽市枇杷庄	センター長: 窪田 忍(理事兼任)

矯正施設退所者の再犯を防ぐために

地域福祉支援センター醍醐には、矯正施設(刑務所、少年刑務所、拘留所、少年院)を退所した障害者・高齢者が、地域の中で安心して暮らせるよう支援するため、国が都道府県に一つずつ設置している「地域生活定着支援センター」があります。
矯正施設の入所者は、必要とする福祉的支援を受けてこなかった人が多く、「退所後も親族などの受入先がない」などの問題を抱えています。そのため、京都府地域生活定着支援センターふいっとでは、主に3つの業務を行っています。



京都府地域生活定着支援センターふいっとの支援の流れ



- ①コーディネート業務(退所前から) 身元引受人の不在などで自立困難な高齢者・障害者に、ニーズ把握、受入先のあっせん、各種申請を行う。
- ②フォローアップ業務(退所後) 退所後、福祉施設などを利用している方を対象に、面談、施設側への助言などを行う。
- ③相談支援業務(退所後) 「懲役または禁錮刑の執行」「保護処分」を受けて矯正施設を退所した高齢者・障害者に助言や必要な支援を行う。

社会復帰に向け、力を合わせて

27年度は、矯正施設の退所者36人を支援し、再犯防止に努めました。また、障害支援区分認定調査を1,400件、サービス等利用計画の作成を220件行いました。

〔次年度に向けて〕

相談業務で困難事例が増加しており、関係機関との連携を一層密にしていきます。また、再犯防止のために必要な要因分析を行い、日常の支援に活かしていきます。



相談支援を行う「りーふ」

事業内容: 障害児(者)相談支援事業所りーふ(相談件数1,286件) 京都府地域生活定着支援センターふいっと	
利用者層: [りーふ]すべての障害者 [ふいっと]触法障害・高齢者	
所在地: 京都市伏見区日野(醍醐)	センター長: 小林 稔

職場定着率が7割以上に向上しました

「はびねす」は、京都府南部地域の就労支援の拠点です。各方面と連携して、障害のある方(身体・知的・精神・発達障害・難病疾患など)の就業や生活指導、助言、職業訓練のあっせんなどを行うほか、一般企業からの相談にも応じています。

精神障害者の登録数が年々、増加傾向にある一方、就職後の離職率はむしろ上昇しています。精神障害者の就労について、企業側の理解が進んではいるものの、定着に向けて課題があることがわかりました。

そこで、27年度は、定着率向上のための定期相談会、相談員の資質向上に取り組みました。

11回の定期相談会など各種取り組みを行い、年間の職場定着率(就職後1年間定着)が71.2%となり、目標の70%を達成しました。



相談対応力の向上で苦情ゼロに

苦情ゼロを目指して「相談対応力向上会議」を毎月1回実施。福祉サービスの説明方法を統一するためマニュアルの作成などに取り組みました。その結果、27年度の苦情はゼロとなり、目標を達成しました。



登録者向け説明書「福祉サービスについて」 企業向けパンフレット「障害者雇用をお考えの事業主様へ」



はびねす登録者対象講習「メディアリテラシー」

〔次年度に向けて〕

定着支援に引き続き力を入れるとともに、在職者の様子や変化を素早くキャッチできるように交流会などを開催します。また、スタッフ全体の支援力の向上を目指し、日常の支援の見直しから「障害者虐待防止法」や「合理的配慮」についての研修を行います。

事業内容: 相談支援(相談件数: 4,448件、職場実習件数38件、就職者44名)	
利用者層: 就労を希望する身体・知的・精神・発達障害者および難病疾患患者	
所在地: 宇治市大久保町北ノ山	担当施設長: 日置 貞義、センター長: 畑 芳博

園児の安心・安全確保を最優先に!

平成27年4月に新たに保育事業を実施。家庭的な温もりのある保育を目指すとともに、登録園児以外の親子を対象とした子育て支援事業も実施しました。送迎時における保護者様との連絡を密にし、家庭での状況や健康状態の把握に力を入れました。



保育士研修を実施

社会福祉法人みかり会(兵庫県)の助言指導を受け、職員の派遣研修、集合研修等により、保育士の資質向上を図りました。

パーソナルシートの活用

毎日、園から保護者様に、一日の出来事をごく簡単にまとめてお知らせしています。言葉が未熟で園での出来事などを十分に伝えることができない時期のお子様と保護者の方がコミュニケーションを図るためでもあります。

細やかに目を配ってくださっている様子が、先生たちのお話や子どもの片言の話から伝わってきて感謝しています。
(保護者アンケートより)



SIDS防止対策

SIDS(乳幼児突然死症候群)の原因は不明ですが、「うつぶせ寝の時に多い」との研究結果から、当園では、「仰向け寝・定期的な呼吸確認」を実践し、原因となる因子を減らす工夫をしています。

- ・ 枕、柔らかい敷布団は使わない。
- ・ 睡眠中に子どもを温め過ぎない。
- ・ 昼寝の部屋は暗くしすぎず子どもの顔を見られるようにする。
- ・ 10分ごとの睡眠チェックを行い、呼吸を確認。

「体験型」親子セミナー開催

未就学児のための親子セミナーを、1年間で計9回実施し、88名が参加しました。

- 「ママにもできるチャイルドカット」
赤松隆滋氏(NPO法人そらいろプロジェクト京都理事長)
- 「親子ピクス」
佐々木阿悠佳氏(NPO法人コンディショニングラボ理事長)
- 「こどものツボ刺激」
中村満氏(明治東洋医学院鍼灸学科長、NPO法人コンディショニングラボ理事)

〔次年度に向けて〕

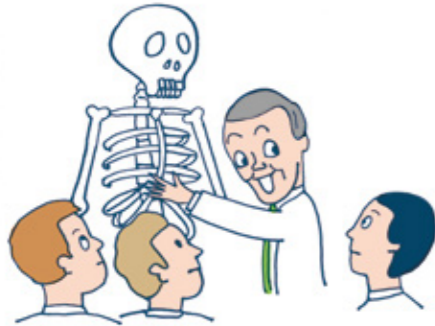
平成28年4月開園の「もりの詩保育園」(定員60名)とあわせて保育事業全体の運営安定、各園の保育内容の平準化を図ります。

事業内容: かげの詩保育園12名(稼働率: 104.2%) そらの詩保育園12名(稼働率: 107%) はなの詩保育園12名(稼働率: 116.7%)	
利用者層: 0~2歳児	
所在地: 京都市中京区・下京区	保育事業局長: 水野 正人、園長: 日比野 桂子

36件

障害のある方を支援して 就職につながった人数

障害者就業・生活支援センターはびねすでは、知的・精神・身体障害がある方、難病の方を対象に就労へのステップアップをサポートしています。



154回

スキルアップのために 行った職員研修の数

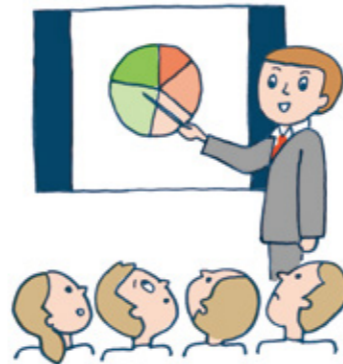
職員が専門スキルを向上できるよう、現場で役立つプログラムを導入し、研修の充実を図っています。



27回

地域との つながりを深める イベントの回数

地域とのつながりを深めるため、毎年、施設に足を運んでいただく機会となるイベントを多数開催し、福祉の理解を促進しています。



1093人

ボランティア活動を してくださった人数

職員だけではできないこともあり、生け花や楽器演奏など趣味や特技を生かしたり、外出に付き添ったり、年間1000人以上の方々にサポートいただいています。



126人

市民講座の受講者数

障害者理解や高齢者介護に関する市民講座を3回開催し、126人参加しました。施設見学も21団体受け入れました。



16780人

ぶちぼんとkitchen+farm、 カフェぷらたんを利用した お客様の数

障害のある方と地域の皆様との架け橋になれるよう、施設の敷地内でカフェを運営し、ランチなどが人気に。イベントなど交流の機会も創出しています。



32市町村

利用者様を受け入れている 市町村の数

京都府内を中心に、大阪府、兵庫県など近隣の市町村から支援を必要としている方々を受け入れています。

平成27年度 法人決算報告

単位:千円

貸借対照表

流動資産	4,449,432
固定資産	6,581,284
資産合計	11,030,716
流動負債	3,491,003
固定負債	1,109,625
純資産の部	6,430,088
負債及び純資産合計	11,030,716

事業活動計算書

【サービス活動増減の部】

サービス活動収益計(1)	3,477,903
(運営収益)	3,475,590
(寄附金収益)	1,490
(その他収益)	823
サービス活動費用計(2)	3,423,343
(人件費)	2,099,154
(事務費・事業費)	1,155,317
(減価償却費)	168,362
(その他費用)	510

サービス活動増減差額(3)=(1)-(2) 54,560

【サービス活動外増減の部】

サービス活動外収益計(4)	22,668
サービス活動外費用計(5)	29,706

サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5) △ 7,038

経常増減差額(7)=(3)+(6) 47,522

【特別増減の部】

特別収益計(8)	570,393
特別費用計(9)	494,595

特別増減差額(10)=(8)-(9) 75,798

当期活動増減差額(11)=(7)+(10) 123,320

前期繰越活動増減差額(12) 2,264,845

当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12) 2,388,165

新規事業積立金取崩額(14) 650,000

次期繰越活動増減差額(15)=(13)+(14) 3,038,165